

道徳指導法 3

—道徳教育は必要ですか?—

<https://ouaharoprof.xsrv.jp/info5>

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説
特別の教科 道徳編

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_011.pdf

「道徳科は必要ですか？」

— “道徳”の歴史という視点から —

テキストp.1～2

道徳教育の変遷1 -戦前の道徳教育-

- 1872年（明治5） 日本最初の近代的学校制度「**学制**」発布、尋常小学校では「**修身科**」

教育の2つの方向性

- 1879年 科学教育を重視する自由教育令公布（森有礼）と「**教学大旨**」（元田永孚ナガザネ）との新旧両思想が衝突。後者は、仁義忠孝を核とする儒教主義的な道徳教育を主張するが却下される。
- 1890年 その後の道徳教育の基になる「**教育勅語**」
- 1891年 修身教科書使用の方針、「**教育勅語**」の徳目（孝、友、和、信、等）に沿った徳目主義
- 1904年 国定教科書を使用、修身科はすでに「**教育勅語**」に基づいた**国定教科書**を使用。

※検定教科書

道徳教育の変遷2 -戦後の道徳教育-

- **1945年（昭和20）終戦後、連合国最高司令部（GHQ）**
「修身、日本歴史及ビ地理停止ニ関スル件」
- **翌年 日本歴史と地理の授業は再開、修身は不再開**
- 文部省(現文部科学省)公民科による道徳教育は却下
※生活している社会について理解し行動の在り方を考え
させようとするものを主張、不設置、理念は社会科へ
- **修身、公民、地理、歴史を融合→「社会科」誕生**
- **学校教育全体を通した道徳教育を実施（全面主義）**
※幸福や理想を目指す、共同社会の一員としての自覚、
国際性の育成

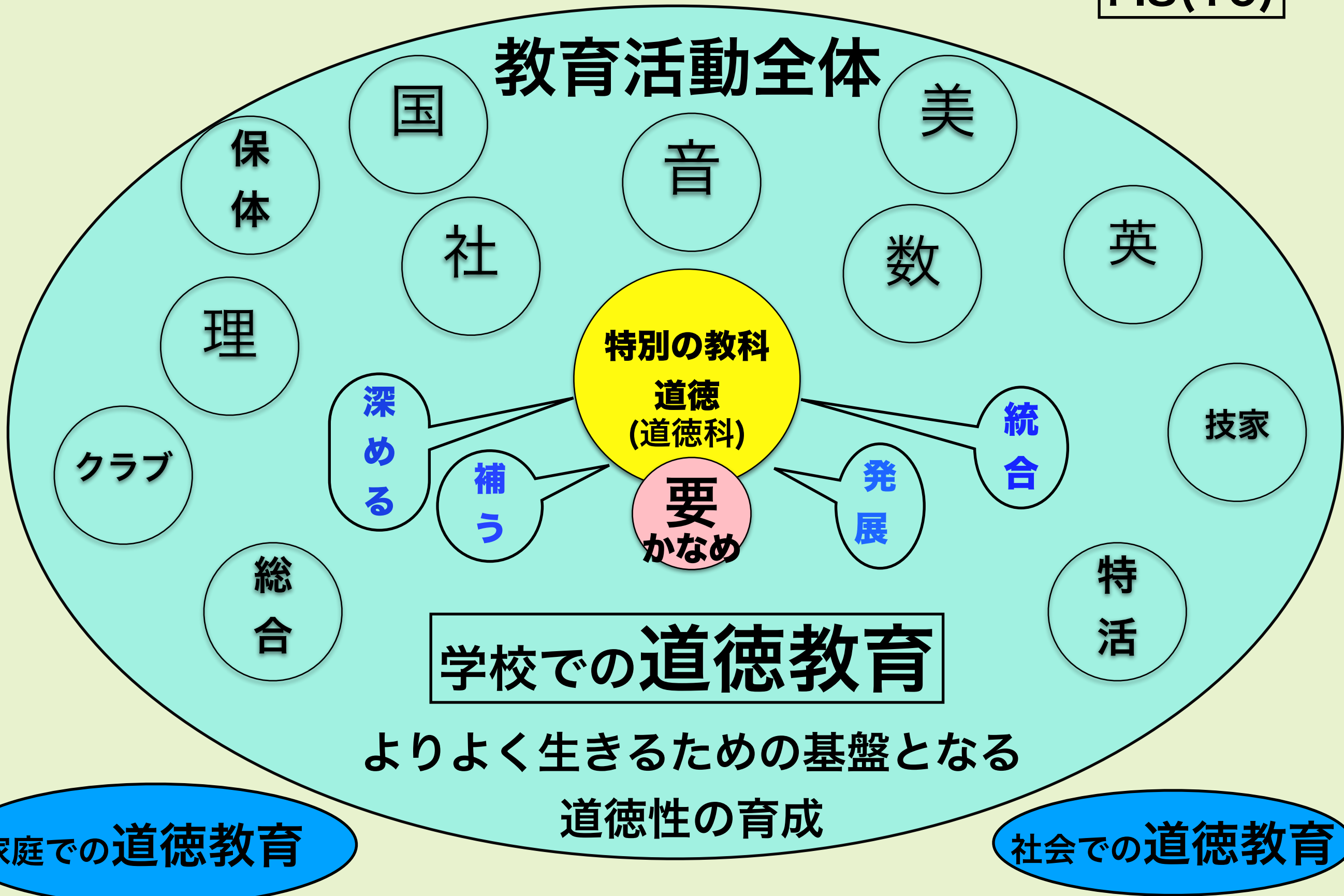
道徳教育の変遷3 — 特設の道徳 —

昭和33年（1958年）「学習指導要領改訂」

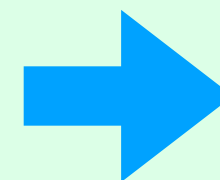
- ・ 教育活動全体を通じて行う道徳教育の補充・深化統合の時間として 「道徳の時間」 を 特設
- ・ 道徳の時間は道徳教育の **「要（かなめ）」**

「道徳教育」と「特別の教科 道徳(道徳科)」との関係

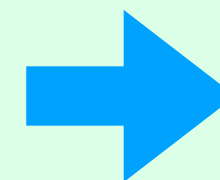
P.8(10)



学習指導要領の変遷



課題



学習指導要領の改訂
道徳科のあり方

「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」へ変更 (なぜ? その理由は?)

- ① 歴史的経緯に影響され、今だに道徳教育
そのものを忌避しがちな風潮
- ② 他教科に比べて軽んじられる
- ③ 心情理解に偏った指導

改 善



「考える道徳」 「議論する道徳」
自らの生き方につながる

道徳教育の変遷4 -平成29年告示学習指導要領-

p.2~

○これまでの学習指導要領の成果と課題

○「考え、議論する道徳」

※主体的対話的で深い学びへの転換

・「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」

・道徳教育と道徳科のかかわり

・道徳教育および道徳科の目標

「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度**を育てる」

「道徳科は必要ですか？」

— 道徳性の発達という視点から —

参照: 『子どもの社会的な心の発達』

林 創(著) 金子書房

道徳性のめばえ

心の理論の発達

『他者の心の理解のめばえ』

○ありえないこと・新しいもの → 注視

養育者と自分と対象の関係（二項関係）

○共同注意（三項関係） → 生後9ヶ月

自分と他者の認識が同じか違うかに気づく



- ・ 社会性やコミュニケーションの発達にとって決定的に重要
- ・ 共同注意の有無によることばの学習（共同注意を伴う反応の繰り返し）

心の理論の発達

『他者の心の理解のめばえ』

共同注意の有無によることばの学習

13ヶ月

①



アイスクャンデー

②

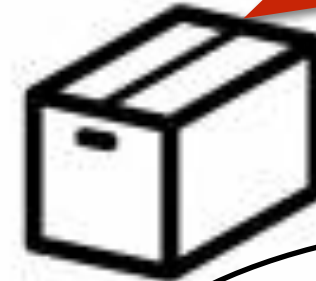
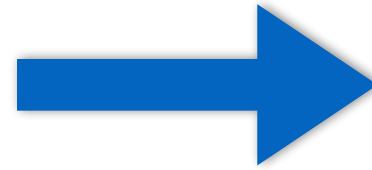


アイスクャンデー

共同注意のない条件の状況が街中で見かける
スマートフォンに夢中になっている養育者
(発達障害)

まり

ちか



間違ってしまいそうな人に
『箱にあるよ』って教えて
あげて! ①

まりちゃんは、おもちゃが
どこにあると思っている
かな? ②

「心の発達」を調べる!

① 助っ人課題 3歳

② 「誤信念課題」 4～5歳

心の理論の発達

4～5歳児

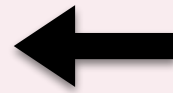
誤信念課題

女の子はおもちゃがどこにあると思っているかな？

3歳児

助っ人問題

間違ってしまいそうな人を選んで、『箱にあるよ』っておしえてあげて



○自分の知識を伝達することによって他者を助けるという社会的な状況が与えられていると、3歳児でも「知識がなければ間違ってしまう人」を選ぶことができる。



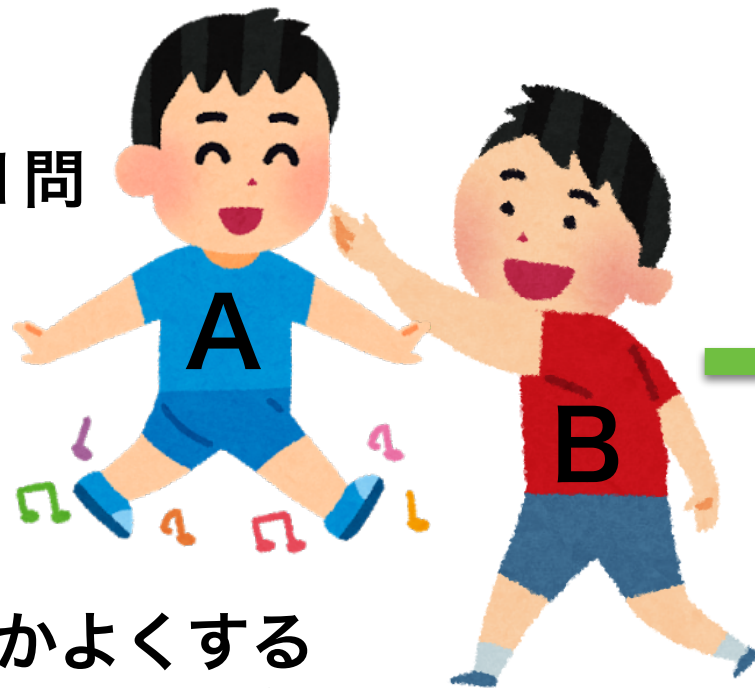
○誤信念を抱いている人を選ぶ

目に見えない他者の心の存在にはっきりと気づき始める
『幼児期』

『登場人物の社会的なかかわり』の実験

なかよくする

第1問



なかよくする

第2問



13ヶ月児



目撃



AはBが悪い子だと知ってしまい、そう思っている。



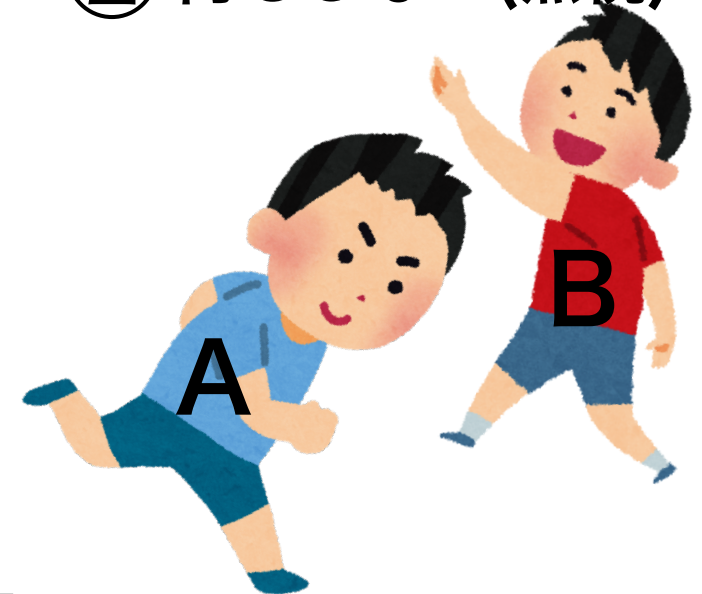
AはBが悪い子だと思っていない。

① なかよくする



なかよくしているのは、変だなあ

② 何もしない(無視)



今まで通り

なかよくしないのは、変だなあ

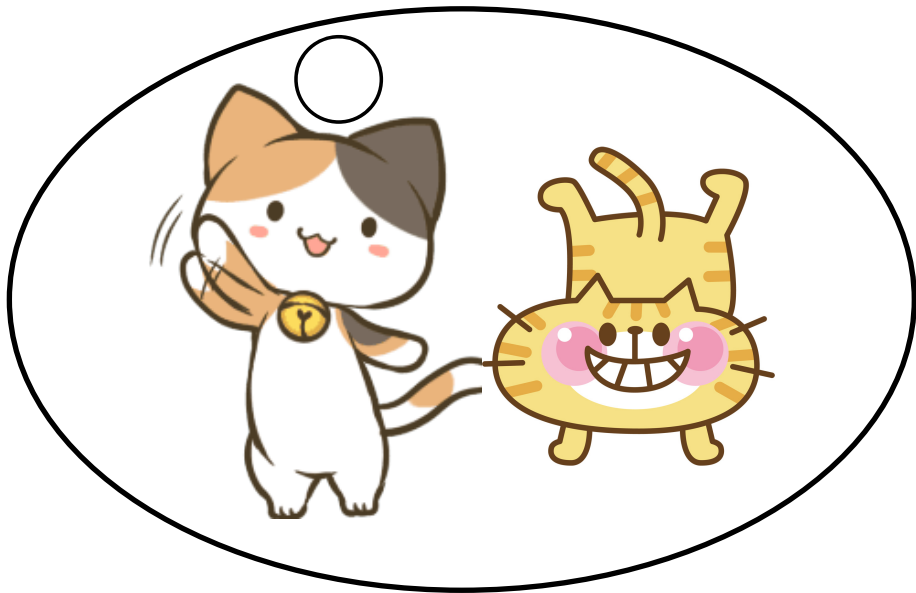
※実験はぬいぐるみでされました。

※変だな、不思議だなと感じたことをじっと見る(注視)。

『道徳的感受性』の実験

※実験はぬいぐるみでされました。

5ヶ月の赤ちゃん



援助(ポジティブ行動)



妨害(ネガティブ行動)



人は生後1年以内に、他者の第三者に対する
好社会的/反社会的行為に対して評価ができる

○道徳性の発達という視点から子どもの行動を考える

○発達心理学

- ・ 生後1歳半頃、「援助」「同情」「公平」の萌芽が見られる。
- ・ **直感的に判断し、「他者を助けたい」「他者に教えたい」と強く動機付けられる。**
- ・ **生まれながらにして、苦境にある他者に対して原初的な同情的態度をとる可能性**

「心の発達」と「道徳的判断」

○道徳性の育成は必要か

- 人間は道徳的な感受性、およびそのような処理をするメカニズムを生得的にもって生まれる。しかし、その後、何もない状態では、そのメカニズムは適切に発達しない。生後に受ける教育や文化の影響によって、さらに道徳的感受性(他者を気遣う時に向ける純粋な関心)、道徳性(人間らしいよさ)が開花していく。

○裁判、裁判員制度は、時間をかけて理性的な判断をすることが求められる。

- 人間は直感だけでなく、その後、理性的に考え、行動をコントロール(実行機能)できる。
- 理性的に考えることの大切さを指導することができる。
- 「道徳性(判断力)」は学習されるものである。

○これまでの道徳教育の成果と課題

文部科学大臣

諮問



答申



p.2

中央教育審議会

平成27年3月 『特別の教科 道徳』

「考え、議論する道徳」

(=主体的対話的で深い学びへの転換)

○下記のメールアドレスまで

koyamahi41@gmail.com

○本文には

- ・「学生番号・名前」→ **必ず学生番号を!**
- ・「**授業の感想文100文字程度**」(紙面で意見交流)

○必ず件名には

「実施時間・科目名」を記入

(例) 1時間目 道徳指導法

2時間目 道徳指導法

○締め切りは、原則、授業日の24時まで